

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護職員初任者研修講座Ⅶ（こころからだのしくみと生活支援技術、振り返り） Care staff beginner's training lectureⅦ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(介護職員初任者研修ユニット必修)	介護職員初任者研修ユニット受講者のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護職員初任者研修講座Ⅰ～Ⅵ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
中島佳子 和田晴美 森千佐子 新井文子	福祉棟3階、2階	各教員から説明します		授業中に指示します
授業の概要				
この授業では、総合生活支援技術の演習と実際のサービス提供現場における実習、実習及び本講座の振り返りを行う。総合生活支援技術演習では、事例による介護技術の展開を通して基礎的能力の向上を目指す。実習では施設サービス実習と訪問通所サービス実習（訪問介護・通所介護・訪問入浴）を行い、それぞれの事業所における介護職員の役割を学ぶ。また、業務を体験することにより基礎的な生活支援能力の習得を目指す。				
授業の目標				
①事例を通して利用者の心身の状況に合わせた介護を考え、生活支援技術の提供を実施できるようにする。 ②実際の施設サービスと訪問通所サービスの現場に触れ、特徴を説明できるようにする。 ③施設サービス・訪問通所サービスを利用している利用者の状況、サービスの内容、提供の方法について説明できるようにする。 ④実習や振り返りを通し、介護員としての役割や継続した学習の必要性について確認できるようにする。				
授業の方法				
総合生活支援技術演習は事例を使用した介護技術の展開方法を学ぶ。実習事前指導は講義。実習は、施設サービスと訪問通所介護サービス各1日ずつ行う。さらに学内において訪問入浴車による訪問入浴の見学実習を行う。実習及び介護職員初任者研修講座Ⅰ～Ⅶの振り返りは、講義、演習を組み合わせで行う。				
学習の成果（学習成果）				
①尊敬を保持しつつ、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮して、その人の在宅・地域等での生活を支えるための基礎的介護技術や知識を習得できる。 ②介護サービス施設、事業所における介護職員の役割や業務の実際を観察し、業務内容やその役割を説明できる。 ③施設や在宅における利用者の生活を観察し、利用者、家族の様子を説明できる。 ④現場での援助活動をもとに自分なりの考察・感想を含め適切な記録を書くことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業のねらいと進め方、成績評価の方法、諸注意等）、実習事前指導（担当：中島・和田）			
第2回目	こころからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術演習① 生活支援技術の復習（第2回～5回担当：和田、森、新井）			
第3回目	こころからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術演習② 生活支援技術の復習			
第4回目	こころからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術演習③ 技術の試験とまとめ			
第5回目	こころからだのしくみと生活支援技術 生活支援技術演習④ 技術の試験とまとめ			
第6回目	施設実習（介護老人福祉施設）① 6時間（第6回目～8回目 担当：中島・和田）			

第7回目	施設実習（介護老人福祉施設）②・施設でのオリエンテーションを受ける ・実習中は施設の指導者に従う・記録を作成し、期限までに提出する		
第8回目	施設実習（介護老人福祉施設）③・施設でのオリエンテーションを受ける ・実習中は施設の指導者に従う・記録を作成し、期限までに提出する		
第9回目	訪問通所介護実習① 訪問介護サービス提供事業所または通所介護事業所での実習 6時間（第9回目～12回目 担当：中島・和田）		
第10回目	訪問通所介護実習② 訪問入浴車による訪問入浴の見学 外部講師：訪問入浴事業所 ビジョン真中佐野		
第11回目	訪問通所介護実習③ 訪問介護サービス提供事業所または通所介護事業所での実習		
第12回目	訪問通所介護実習④ 訪問介護サービス提供事業所または通所介護事業所での実習		
第13回目	振り返り① 実習反省会（13回～15回 担当：中島、和田）		
第14回目	振り返り② 講義・演習・実習を通して学んだことのグループディスカッション		
第15回目	振り返り③ グループディスカッションのまとめ、発表		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		20%	授業・実習への参加状況等により評価を行う。評価基準Sは、授業・実習共に準備をして臨み、常に積極的に参加し自らの意見を述べる。他者からの助言は素直に聴き、行動を改められること。
レポート		50%	実習日誌で評価をする。評価基準Sは、実習日誌を期限厳守で提出できている。毎日の目標が明確であり、適切な表現で自分自身の学びや振り返りが理路整然と記載できている。さらに文章に誤字・脱字がない。
調査報告書			
小テスト		30%	事例を用いた生活支援技術の実技テストを行う。
試験			
発表内容（態度含む）			
その他			
教科書と参考図書			
教科書：介護職員初任者研修課程テキストシリーズ3巻（日本医療企画）			
履修上の留意点・ルール			
マナーやルール、実習に適した身だしなみ、マナー、態度を順守し、実習に臨むこと。実習では佐野短期大学の学生の代表として恥ずかしくない行動を意識すること。			